

高砂熱学イノベーションセンターの地域貢献について

来田 昌弘

Local contribution activities of Takasago Thermal Engineering Innovation Center

Masahiro Kitada

1. はじめに

2020年3月より茨城県つくばみらい市にて高砂熱学イノベーションセンターの運営を開始し、環境クリエイター®の発信拠点として、顧客、大学、研究機関及び地域と様々な連携活動を行ってまいりました。

その取組みの一環として、2020年8月につくばみらい市と包括連携協定を締結しました。

脱炭素社会の実現や社会課題の解決に向けて多様な分野（教育・防災・エネルギー・コミュニティ）において相互に協力することで、地域社会の持続可能な発展と「みらい都市」の実現に寄与することを目的に掲げ、これまでの3年半の活動期間において、継続した成果を上げております。

本報では、つくばみらい市との連携の主な取組み内容と、今後の地域貢献活動全般の展望をご紹介します。

2. 教育

- ・東京応化科学技術振興財団（理事長・藤嶋昭当社顧問）より、市内小中学校（14校）へ科学関連の図書を寄贈（2020年1月）
- ・夏休み自由研究展での高砂熱学賞（環境クリエイター賞）の設置と授与（2022年、2023年）
- ・あかちゃんフェスタ事業支援（体験展示出展）（2023年、2024年）



写真1 つくばみらい市との包括連携協定締結式



写真2 環境クリエイター賞案内



写真3 同授賞式後の記念撮影

小中学生に科学の楽しさを伝え、興味を持ってもらうように、つくばみらい市が小中学校の自由研究展での『高砂熱学工業 環境クリエイター賞』を創設しました。次世代の『環境クリエイター』が一人でも多く育ち、地球環境の未来をきりひらく存在となるよう高砂熱学は応援します。また、コロナ禍での停滞を余儀なくされた近隣小中学校への出前授業も学校関係者の方々と検討を再開し、実現に向けて取り組んでいきます。

3. 防災・エネルギー

- ・「災害時避難所用コロナ対策空調換気ブース」寄贈（2020年12月）
- ・同ブースの設営訓練（小絹小学校）をつくばみらい市担当者と実施（2021年9月）
- ・「体育館空調システム“フレッシュクール®”」の試験導入（富士見ヶ丘小学校）（2022年10月）
- ・“フレッシュクール®”の体感会実施（2023年7月）
- ・環境基本計画、地球温暖化対策実行計画の検討委員会にオブザーバー参加（2020年）
- ・市環境保全審議会への委員参画（2021年11月）
- ・省エネ再エネ導入事業の検討と再エネポテンシャル調査の支援（2022年）
- ・公共施設への環境負荷低減設備導入について市側と情報交換、勉強会を開催（2022年）

災害時の避難所としては、公共施設の体育館、集会所などを使用するのが通例です。避難所では過密化や寒暑厳しい環境での生活を強いられ、長期化に伴う体調悪化、感染症への対策が大きな課題となります。一般的に使われている布や段ボールによる仕切りでは、感染症防止効果は限定的です。高砂熱学が開発した「災害時避難所用コロナ対策空調換気ブース」はブース内部を陽圧や陰圧に保持して感染リスクの低減を図るとともに、スポットクーラーを用いてブース内を快適に保ちます。また「体育館空調システム“フレッシュクール®”」の設置は、避難用テントなどを複数配置した館内でも隅々まで新鮮空気が行き渡ります。平時はスポーツに適した省エネルギー冷暖房施設として、災害時には被災者の快適性をより向上させ、体調悪化を防ぐ防災・減災機能を有する設備とすることで公共施設などを有効活用することができます。

企業の策定するBCP（事業継続計画）は、当社施設だけが復旧しても、社会活動がままならない状態では事業活動の再生は進みません。自助を継続する一方で共助、公助へと至る過程を迅速、円滑に進める地域支援をCSR（企業の社会的責任）の観点から一層取り組みます。

また、高砂熱学の得意分野として、再生可能エネルギー活用の課題をつくばみらい市と協働して解決す

るべく、勉強会、情報交換会を継続してまいりましたが、令和6年度はその成果を形として実現することをこの包括連携の重点事項として、市と進めてまいります。



写真4 避難所用空調換気ブース贈呈式



写真5 “フレッシュクール®” 体感会パンフレット

4. コミュニティ

- ・たかさごマルシェの開催（2回/年、累計6回）（2023年度総来場者1,764名）
- ・弦楽四重奏コンサートの開催により地域住民を中心に約300名来場（2023年10月）
- ・小中高等学校向け見学会（2021年～）
- ・親子科学体験ツアー等各種イベントの開催（2022年8月）
- ・つくばみらい市総合計画審議会委員参加（2023年1月）
- ・つくばみらい市ボランティア団体の活動支援等（2022年～）

『たかさごマルシェ』（高砂熱学イノベーションセンターを会場とした農産物・クラフトの販売と研究施設紹介などを行う1Dayイベント）を中心とした地域貢献イベントをこれまで多く行ってきました。イベントも回を重ねる度に来場者の方から「高砂さんよく知っていますよ」という声を多く戴くようになりました。

テレビCM（富士見ヶ丘小学校の体育館に附設された“フレッシュクール®”を放映）を話題にしてくれる同校関係者も多く、施設を案内すると、以前は「た・か・さ・ご・ね・つ・が・く？」だった子どもたちが、親しみをこめて「たかさご♡」と呼んでくれるようになりました。

地域社会を形成する主体は、その地域で活動・居住する住民、企業、教育・医療機関など様々です。

日常においては、その主体が相互に連携し、地域発展のための行動をとれる機会は稀なことです。地域イベントはそれらの日常の社会をフラットにして、同じものを見て、聞いて、食べる、という体験を共有することで、コミュニケーションが始まり、次第に深まることが期待できます。これは地域の様々な主体を「ツナグ」こととなり、場面に応じて地域発展の為の、迅速、的確な協力や、主体毎の活動目的（例えば、ブランドイメージ♡の向上）の成果を期待できます。

ある学校イベントをお手伝いした際に、主催者の方から「高砂さんは地域の誇りです」というお礼の言葉を戴いたときは、関係スタッフ一同感激したことを忘れられません。

一方で、『たかさごマルシェ』の会場で来場者アンケートを採らせていただくと、圧倒的に多いリクエストは体験型のアイテムをもっと多く出展して欲しいという内容でした。

地域主体を『ツナグ』仕掛けはさらに工夫の余地ありと心得て、地域発展と企業価値向上を目指してまいります。



写真6 第6回たかさごマルシェの様子

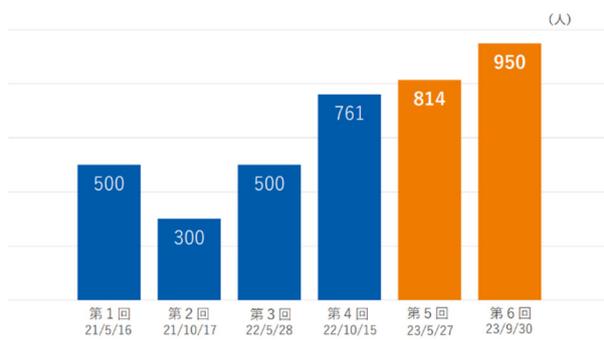


図1 たかさごマルシェ来場者数の推移



写真7 たかさごコミュニティコンサートの様子

5. ふるさとづくり大賞受賞

包括連携におけるこれらの取組みの過程で、2023年2月に『令和4年度 ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰』という形で総務省より評価を戴きました。同賞は、急速な発展を遂げるつくばみらい市と包括連携協定により協働させていただいたことで受賞のこなった名誉であり、あらためて市に感謝申し上げます。

今後も、この包括連携事業において「みらい都市」の実現に寄与する目標を掲げて協働させていただけるよう努めてまいります。



写真8 授賞式記念撮影



写真 9 ふるさとづくり大賞受賞概要

6. おわりに

2020年の当センター開所から3年半の間に、環境クリエイター®の発信拠点として、顧客、大学、研究機関及び地域との様々な連携活動を行ってまいりました。今後も、つくば・常総地区での地域に密着した貢献活動をさらに進めるとともに、全国・海外からも注目され訪問していただける施設へと進化し、2024年度からは、茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会での活動をはじめとして、様々な機関と連携を目指して以下のような活動を推進します。

- ・ 研究開発分野での各種機関との連携・協力
- ・ 教育分野での社会見学や職場体験の受け入れ
- ・ 再生可能エネルギー活用など脱炭素推進活動
- ・ 地域防災活動への支援
- ・ 施設を活用した文化・芸術イベントの主催
- ・ 被災地支援として一時避難所の提供

このような取組を活発化させることで、高砂熱学ファンの創造、企業価値の向上や優秀な人財の採用につなげ、社員が高砂熱学の仕事に誇りを持ち続ける企業を目指して活動してまいります。